

米中貿易摩擦から飛び火！米国産トウモロコシ追加輸入決定

みなさん、こんにちは！

穀物繊維をテーマに雑穀・大麦・シリアルを提案しています
ライスアイランドメールマガジン♪

さて、今回は時事ネタで先週のビッグニュース
「日米首脳会談での米国産トウモロコシ追加輸入決定」
について考えてみたいと思います！

■ 自動車業界への打撃を先送りするための苦肉の策？

皆様もご存知の通り、先般の日米首脳会談後で
米国産の飼料用トウモロコシを日本が追加輸入することが決まりました。

その量なんと…約 275 万 t！

2018 年度の米国産飼料用トウモロコシ輸入量が約 1,100 万 t ですから
約 3 か月分を追加購入…という形になります。

そもそもは中国が買うはずだったトウモロコシ。

トランプ大統領としては

- ・ 来年の大統領選に向けたアピール材料が必要
- ・ 比較的容易かつ早期合意が得られる国と分野

という状況の中で飼料用トウモロコシにフォーカスし

日本に交渉を持ちかけたものと思われます。

日本としては最重要である自動車産業への打撃を先送りするために
農業・畜産を犠牲にした…という形になりました。

トランプ大統領も満足度が高かったのか

首脳会談後の記者会見で成果として強調する姿が印象的でしたね。

■ トウモロコシの追加輸入が憲法改正にも影響？

さて、この飼料用トウモロコシの追加輸入によって日本の農政には、どのような影響があるのでしょうか？

自民党は結党以来の悲願である憲法改正に向けて過去、農業従事者の票田を刺激しないように様々な農業政策を展開してきました。

その代表が皆さんもご存知「減反政策」。
コメの生産量を管理することで米価を高値維持し農家の所得を守ってきました。

減反廃止に伴って新たに施行されたのが飼料用米の優遇措置です。
飼料用としてコメを生産すれば、家畜のエサとしての販売収入や補助金など農家の所得がしっかり確保される…という仕組みです。

ここで注視したいのは飼料用トウモロコシが入ってくると飼料用穀物の市場にどのような変化が起こるのか…ということです。
トウモロコシの需要が増えた場合に市場経済であれば飼料用米のダブつき、米価下落も懸念されますが国が推進する農政ですので、どのような動きになるのでしょうかね…？

安倍総理としては米国产飼料用トウモロコシを
買うも地獄、買わぬも地獄…苦渋の決断だったのかも知れません。
この結果によっては農政のみならず憲法改正も含めてどのような影響があるのか、今後の動きに注目です。

★ 今週のおすすめ原料

さて、このニュースでもお分かりの通り日本国内のトウモロコシ市場は飼料用・食用いずれも大部分を輸入を頼っています。

国産トウモロコシで付加価値の高い商品開発・メニュー開発に取り組んでみませんか？

当社では北海道産トウモロコシを在庫しており
粉、パフなど様々な加工原料として供給できる体制を整えております。
遺伝子組み換えの心配もない安心安全な国産トウモロコシ。

一部の展示会ではお披露目しており
製菓製パンの練り込み、スープの具材など幅広く引き合いを頂いております。
皆様も是非ご検討ください！

配信元 株式会社ライスアイランド <http://www.riceisland.co.jp/>